

硫黄島の火山活動解説資料（平成 20 年 7 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しています。国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降見られている島全体が隆起する地殻変動は現在も継続しています。

硫黄島では引き続き火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気・地熱等の状況（図 1、図 2、図 3、図 4）

29 日の上空からの観測及び 30 日の現地調査（いずれも海上自衛隊の協力による）では、摺鉢山、阿蘇台陥没孔、井戸ヶ浜、漂流木海岸、北ノ鼻付近、離岩温泉跡、金剛岩付近及び元山硫黄ヶ丘などで地温の高い領域や 100℃前後の噴気が確認されましたが、前回の観測（2006 年 11 月 28 日）と比べて、島内の噴気、地熱等の状況に大きな変化は認められませんでした。

・地殻変動の状況（図 5）

国土地理院の GPS 観測¹⁾によると、2006 年 8 月以降見られている島全体が隆起する地殻変動は、現在も継続しています。

1) 最終解は国際的な GPS 観測機関 (IGS) が計算した GPS 衛星の最終の軌道情報 (精密暦) で解析した結果で、最も精度の高いものです。速報解は速報的な軌道情報による解析結果で、最終解に比べ精度は若干下回りますが、早期に解を得ることができます。

・地震や微動の状況

独立行政法人防災科学技術研究所の地震観測によると、火山性地震は落ち着いた状態で経過しています。

○ 過去の火山活動との比較（図 6）

硫黄島ではこれまでも 1981-1984 年（測量による）や 2001-2002 年（GPS 連続観測及び測量による）に最大 1 m を超える隆起の地殻変動が観測されており、隆起が見られていた期間中の 1982 年と 2001 年には小規模な噴火が発生しています。

一方、噴火前に必ずしも地震活動が活発化するとは限らず、地震観測が開始された 1976 年以降で見ても、1982 年 11 月の阿蘇台陥没孔^{あそだいかんぼつこう}や 2001 年 9 月の翁浜沖^{おきなほま}で発生した噴火以外は、ほとんどの噴火で事前に地震活動の活発化が認められませんでした。

明治以降の記録に残る硫黄島の噴火はいずれも小規模な水蒸気爆発で、噴火地点は島東部の海岸付近及び井戸ヶ浜から阿蘇台陥没孔を経て千鳥ヶ原^{ちどりがはら}にかけての領域に集中しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 8 月分）は平成 20 年 9 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は国土地理院および独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 250m メッシュ（標高）』、『5 万分の 1 地形図』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

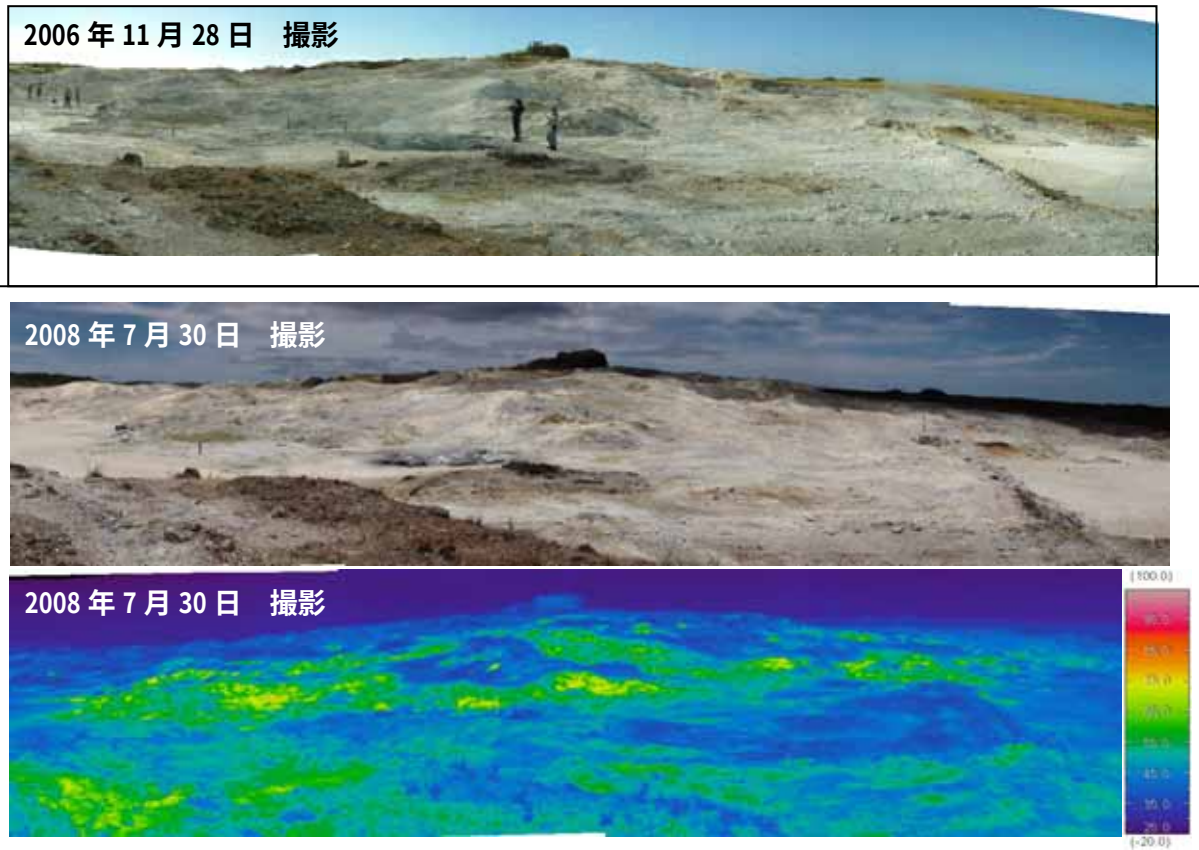


図1 硫黄島 赤外熱映像装置により撮影した硫黄ヶ丘の表面温度分布

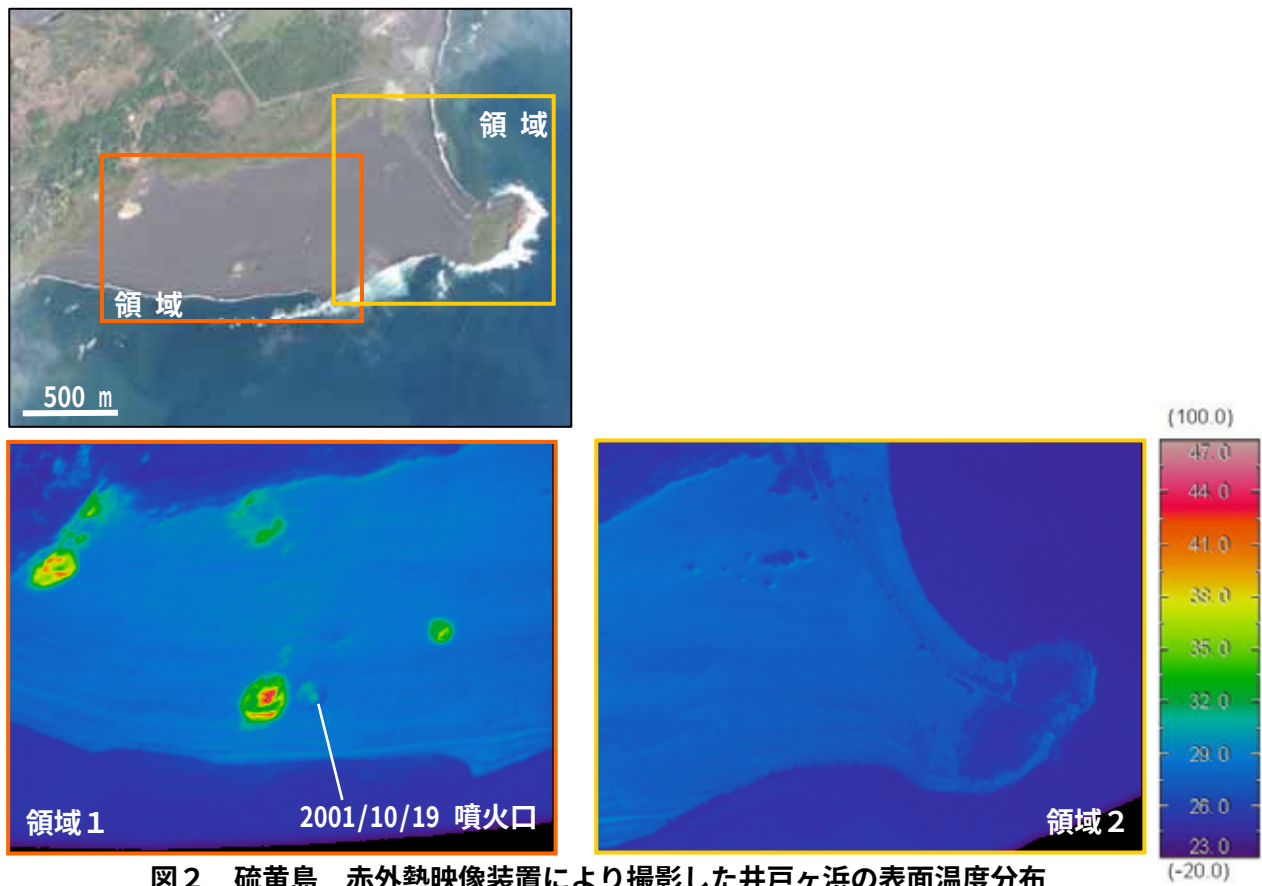


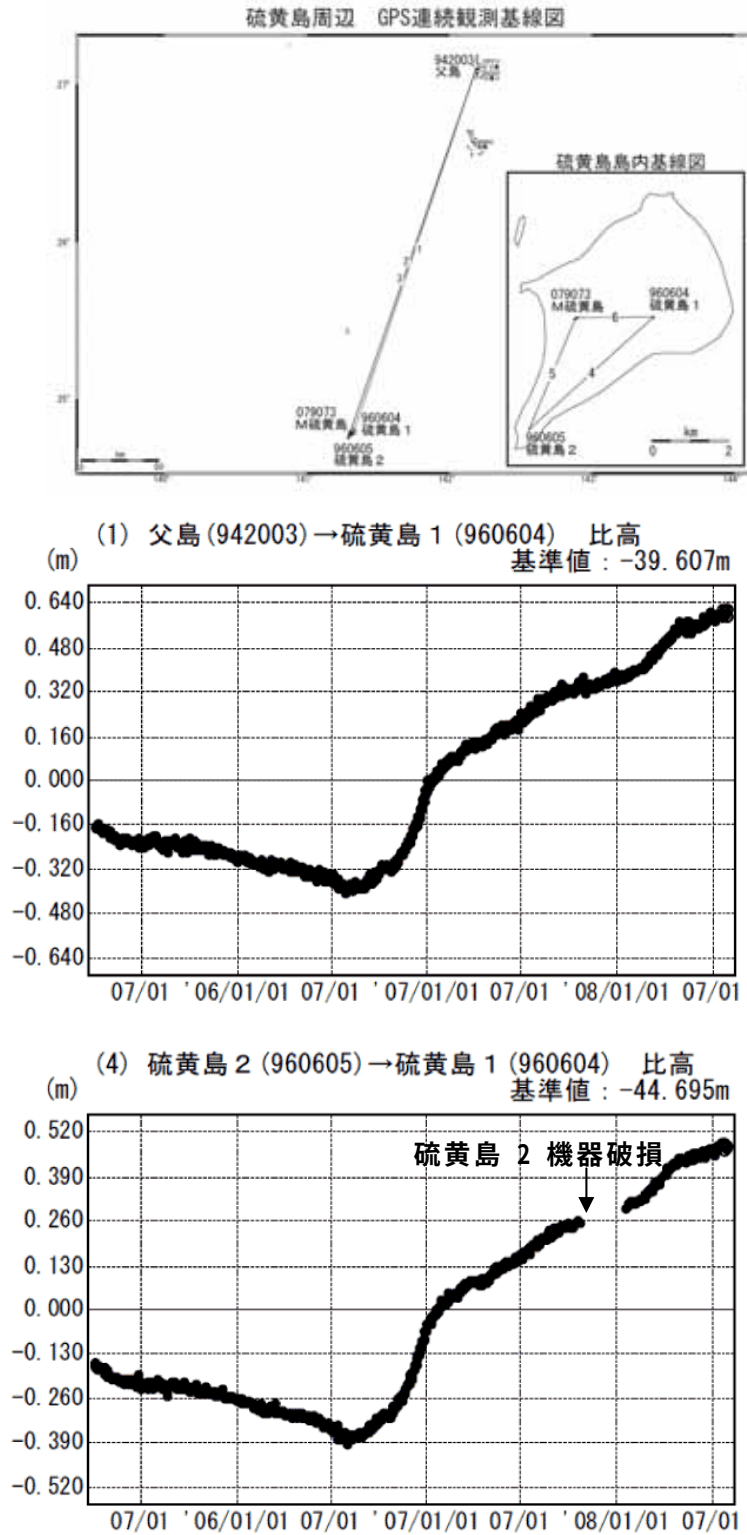
図2 硫黄島 赤外熱映像装置により撮影した井戸ヶ浜の表面温度分布
(2008 年 7 月 29 日 約 4,00ft 上空から撮影)



図 3 硫黄島 阿蘇台陥没孔の状況（西側から撮影）



図 4 硫黄島 離岸海岸跡の噴気の状況（南側から撮影）



●---[F 2 :最終解] ○---[R 2 :速報解] 国土地理院

図 5※ 硫黄島 国土地理院による GPS 観測結果¹⁾
 2005 年 4 月 1 日から 2008 年 7 月 31 日までの硫黄島の動き
 上のグラフ：父島に対する硫黄島 1 の比高の変化
 下のグラフ：硫黄島 2（島南西部の摺鉢山付近）に対する硫黄島 1（島北部の元山地域）
 の比高の変化

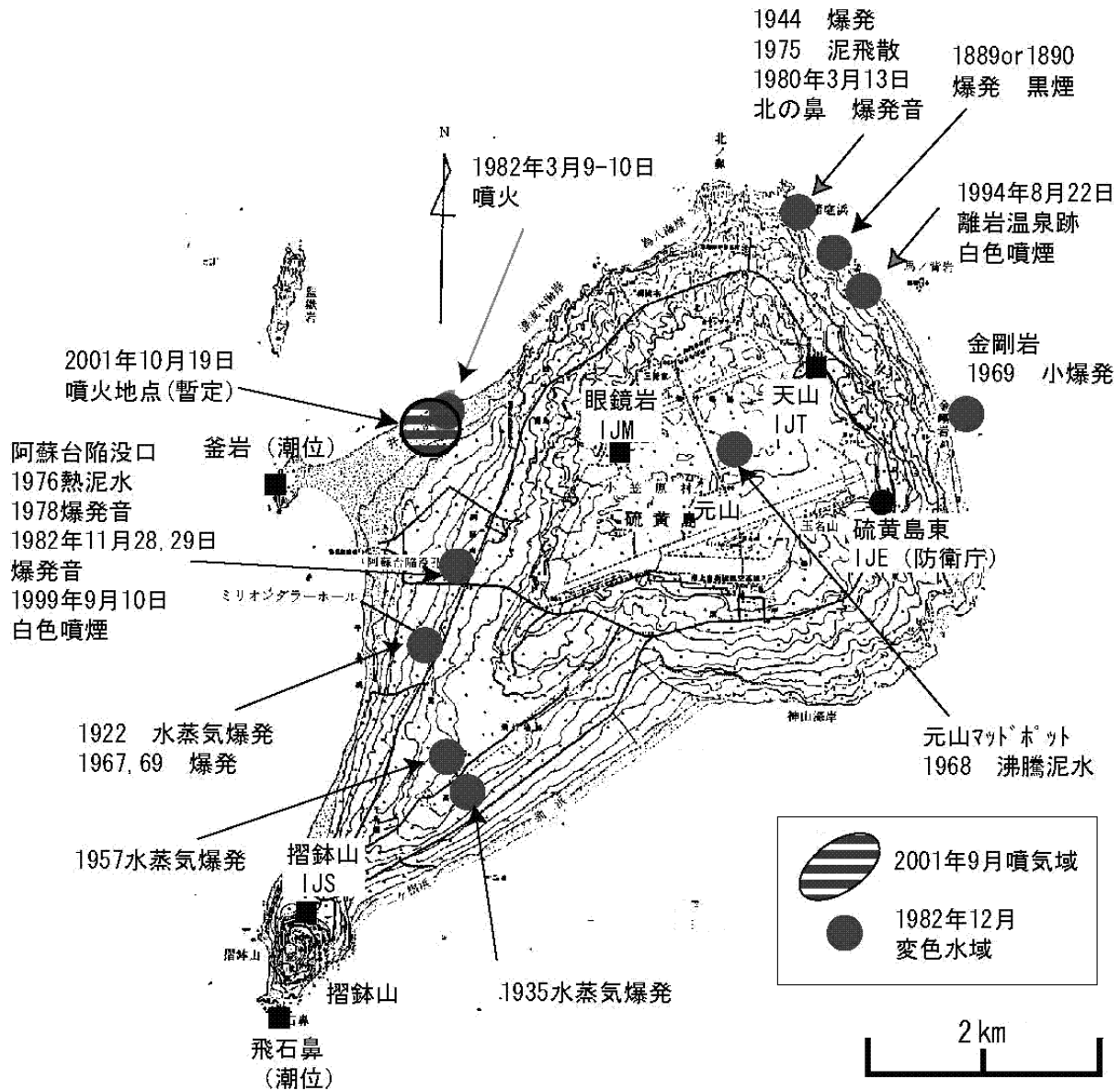


図6 硫黄島 過去に噴火等が確認された地点

「鶴川元雄・藤田英輔・小林哲夫，2002，硫黄島の最近の火山活動と2001年噴火，月刊地球，号外39号，157-164.」より